



議会だより



議場にて(8月31日・9月定例会開会日)

もくじ

平成21年第5回横手市議会7月臨時会が7月21日に、
第6回横手市議会9月定例会が8月31日から9月17日までの
18日間の会期で、それぞれ開かれました。

- P 2 ~ 3 ◇ 9月定例会の概要 ◇ ~ 昨年度の企業会計の決算や、今年度の補正予算など審議 ~
- P 4 ~ 5 ◇ 市議会のあゆみ ◇ ~ 横手市議会の平成17年10月から4年間のあらまし ~
- P 6 ~ 7 ◇ 一般質問・7月臨時会 ◇ ~ 議員8名が登壇・総額15億円余の臨時交付金事業を審査 ~
- P 8 ◇ 議会活動報告 ◇ ~ 議長報告・行政視察報告会・厚生常任委員会視察報告 ~

収穫まじか こうべを垂れる稲穂

9月定例会

補正予算案などを可決・平成20年度企業会計決算などを認定

9月定例会の経過

平成21年9月定例会は8月31日から9月17日まで、18日間の会期で開催されました。

初日は、五十嵐市長の所信説明の後、議案が上程されました。

上程された案件は、人権擁護委員候補者の推薦に係る諮問案件1件、専決処分報告2件、専決処分の承認案件1件、昨年度の病院事業・水道事業・簡易水道事業の決算認定案件7件、一般会計補正予算案などの議案18件です。

議案と認定案件については、質疑の後、各常任委員会・一般会計予算特別委員会・決算特別委員会に付託し散会しました。

7日と8日の一般質問は8人が登壇、当局の考えを質しました。

8日には、財政健全化法に基づく報告2件が上程されました。

17日の最終日は、各委員長報告の後、採決が行われ、陳情1件を除き、いずれの議案も原案のとおり可決・認定されました。

その後、市庁舎建設問題等調査特別委員長の報告があり、横手市議会の初代4年間の任期をしめくくる定例会を閉会しました。

常任委員会での審査

◆厚生常任委員会

出産一時祝金増額の根拠についての質疑では、当局より、出産費用の全国平均が42万円であり、現行の35万円に4万円を増額し、さらに出産時の脳性麻痺等に備える保障制度負担分3万円を加え、総額42万円を支給するものである。来年3月まで、50件を見込んでいるとの説明でした。

また、障がい者の自立支援の事業開拓について質疑があり、除雪用ポールなど官公庁からの業務がほとんどで、今後は通年で行なえる民間からの仕事を探していくとの説明がありました。

◆産業経済常任委員会

市営温泉施設の業務発注の方法について質疑があり、大規模な修繕工事など以外は、それぞれの施設ごとに発注しているとの説明でした。

◆建設常任委員会

自転車駐車場の管理について質疑があり、8月にJR横手・醍醐・十文字の各駅前から合計78

台の放置自転車を撤去したとの説明があり、委員から、駐車場の適正な管理に努力するよう意見が出されました。

また、住宅リフォーム補助事業を活用した下水道の整備状況についての質疑では、補助金を利用した住宅リフォームで、9月上旬までに42軒が下水道に接続した。なお、市民から好評な補助事業であり、今後も充実を図っていきたいとの説明がありました。

◆総務文教常任委員会

JR横手駅の駅西公共施設用地の購入の経緯について質疑があり、公共施設用地は地権者から賃借しているものであるが、今回は地権者から申し出があったので、買収することとしたとの説明がありました。

西部地区統合中学校建設用地の購入の価格決定の経緯についての質疑では、市道改良工事の買収価格や旧市町村での買収価格などを参考にしながら、土地所有者15名による地権者会と協議して決定した。また、歩道については、今回購入予定地の一部を利用して整備することを検討しているとの説明がありました。

予算特別委員会での審査

総額4億3千万円余りの一般会計補正予算案については、4つの分科会に委嘱し、詳細な審査が行なわれました。

◆コミュニティFM支援事業

この事業は、7月臨時会で提案し、その後当局で取り下げ、再度検討を加え上程された事業です。

事業の目的や内容についての質疑では、当局より、FM放送局の開局に向けては、横手商工会議所が中心となって会社を設立していくことで進められている。市としては、行政情報、とりわけ防災や災害時の緊急放送に有効な手段と考えている。今回は、そうした効果などについての調査費を補助するものである。今後は、電波塔の建設を支援していきたいとの説明がありました。

◆政権交代の影響

今回の政権交代により、国からの補助金や交付金で実施する事業や、国の制度に基づいて進めている計画に支障はないかとの質疑では、凍結などの懸念はあるが、現段階で具体的な影響については不明であるとの答弁でした。

決算特別委員会 審査報告

特別委員会では、病院事業と水道事業の企業会計に加え、昨年度で廃止され水道事業に統合された5地域の簡易水道事業の、平成20年度決算を審査しました。

水道事業会計決算

◆供給単価より高い給水原価

赤字の状況と対策について質疑があり、当局より、給水原価が高くなるのが通常であり、一般会計からの補助金などが財源であることも影響している。なお、水道料金の基礎となる給水単価の引き下げは必要であり、全体的な経費の削減に努めていくとの説明がありました。

病院事業会計決算

◆収支とも予算と差のある決算

予算編成の見直しが必要ではないかとの質疑があり、企業会計は病院で可能な業務量で予算編成するものであり、結果として患者数や治療経費が少なかつたということである。また、自治体病院は救急医療も担うため、多様な患者に備える必要があるとの説明でした。

市庁舎建設問題等調査特別委員会の調査報告

平成20年6月に設置された特別委員会では、12名の委員が、2回の先進地視察を含め、12回にわたり調査・検討を行いました。

本庁機能の集約と 地域局の充実

現在、10庁舎に分散している本庁機能は、業務の遂行に多くの支障をきたしております。

また、合併後の行政に対する市民の不安感は、程度の差こそあれ、払拭できない状況があります。

効率的な行政運営ができるよう、組織機構改革とあわせ、本庁機能を集約することと、市民による地域づくりの拠点となる地域局の一層の充実を図るよう、当局に要望するものです。

庁舎整備基金の設立を

今後、計画的に庁舎を整備するためには、基金を創設して財源の確保に努める必要があります。さらには、合併シンボルとしての施設整備の可能性もあります。民間施設の活用なども含め、広い視野で検討し、横手市の重要な懸案事項を、市民に親しまれ行政効率のよい具体策が立案されるよう、当局に求めるものです。

陳情の 審査結果

採択

◆陳情◆

協同労働の協同組合法（仮称）の速やかな制定を国に求める
日本労働者組合連合会
[意見書提出]

不採択

◆陳情◆

「裁判権放棄の日米密約」の公表と廃棄を国に求める
秋田県平和委員会

審査では、立身委員より陳情の願書に賛成であり採択すべきとの討論があり、起立採決の結果、賛成少数で不採択となりました

会のあゆみ

数字でみる4年間

【議案】

- ◇ 地方自治法では、市が事務や事業を進めようとするとき、議会の議決を必要とする事柄を16項目にわたり規定しています。

これらは、議案として議会に上程され、審議されることとなります。

- ◇ 議案には、市が提出する議案のほか、議員や議会が提案する議会案と、市民や団体が市などに要望する事項を文書で提出した請願や陳情があります。

■請願・陳情	113件
採択	89件
不採択	24件
■市長提出議案	1,320件
可決	1,314件
修正可決	3件
否決	3件
■議会提出議案	75件
可決	74件
■合計	3,015件

【会議】

- ◇ 市議会の会議には、条例で年間4回開催と定めている定例会と、緊急に特定の議案を審査する臨時会があります。

いずれの会議でも多岐にわたる議案を詳細に審査するため、総務文教・厚生・産業経済・建設の4つの常任委員会と、予算・決算審査のためそのつど設置する特別委員会に付託します。委員会では、専門的に審査を行い、その内容と結果を本会議で報告します。

- ◇ 定例会は、原則として3月・6月・9月・12月に開催されます。会期は、概ね3週間程度です。

- ◇ 臨時会は、必要に応じ、緊急に議決が必要な議案を審査します。会期は、前年度の一般会計と特別会計の決算を審査する11月臨時会を除き、通常1日で終わります。

■定例会・16回開催	会期・延べ321日間
本会議審議・延べ85日間・	延べ249時間2分
傍聴者・延べ	1,450人
■臨時会・12回開催	会期・延べ52日間
本会議審議・延べ31時間4分	傍聴者・延べ260人

【特別委員会】

- ◇ 市議会では、特定の問題を一定期間継続して調査し審議するため、予算・決算以外にも特別委員会を設置しました。この4年間に、5つの特別委員会が設置されました。

観光産業振興特別委員会	(設置期間H18.12.22~H20.3.19・委員10名)
横手駅周辺開発調査特別委員会	(設置期間H18.12.22~H20.3.19・委員11名)
少子高齢化対策特別委員会	(設置期間H18.12.22~H20.3.19・委員9名)
議員定数調査検討特別委員会	(設置期間H20.9.29~H20.12.19・委員12名)
市庁舎建設問題等調査特別委員会	(設置期間H20.9.29~H21.9.17・委員12名)

【議員・議会活動の拡大】

- ◇ 市議会では、以上の会議のほか、市民に開かれた議会と円滑・的確な議会運営のため、協議の場を設けています。

議会運営委員会・全員協議会・会派代表者会議・世話人会議・議会広報委員会

おもな出来事



横手市議

平成17年(2005)

3.23	合併協議会	合併後の議員定数を34名と決定、告示。(旧8市町村議員総数143名)
10.1	市町村合併	横手市と平鹿郡の5町2村が合併。人口10万人超の県内第2の市が誕生。
10.23	選挙投票日	即日開票。初代議員34名が誕生。(候補者73名・投票率84.03%)
11.14~11.16	初議会	横手市初の本会議。田中敏雄議長・佐々木喜一副議長ほか、議会構成決定。
12.6~12.22	12月定例会	石川耿一氏の助役選任、谷口 勇氏・高橋 謙議員の監査委員選任に同意。

平成18年(2006)

2.6~2.7	2月臨時会	旧8市町村と旧広域市町村圏組合の平成17年度9月末までの決算を審査。
3.6~3.27	3月定例会	453億円余の平成18年度一般会計当初予算案など165議案を可決。
6.5~6.23	6月定例会	国保税率の引き上げ案や、103施設の指定管理者制度導入案などを可決。
9.4~9.22	9月定例会	高度医療の充実を目的に、平鹿病院建設へ15億円余の補助金支出を可決。
11.14	11月臨時会	平成17年度の一般会計・特別会計の決算を審査。12月定例会で認定。
12.4~12.22	12月定例会	今後10年間のまちづくりの指針となる横手市総合計画基本構想案を可決。観光産業振興、横手駅周辺開発調査、少子高齢化対策の3特別委員会設置。

平成19年(2007)

2.26~3.20	3月定例会	小野タツ子氏の副市長選任に同意。これにより、副市長が2名体制となる。一般会計当初予算案、産業支援センターの補助金を減額する修正案を可決。
6.4~6.22	6月定例会	昨年度に続き後期高齢者医療制度開始などに伴う国保税率引き上げ案可決。
8.9	8月臨時会	大森小学校統合事業費などの補正予算案を可決。小中学校統合計画が始動。
9.3~9.21	9月定例会	揃いの秋田わか杉国体ジャンパーを着て大会成功を誓った“スギッチ議会”
11.5~11.15	11月臨時会	田中議長・高安副議長ほか、議会構成再編。平成18年度の決算を認定。
11.26	11月臨時会	議員・特別職・職員の給与引き下げ案可決。近江議員の監査委員選任同意。
12.3~12.21	12月定例会	水道料金体系を平成26年までに段階的に統一していく条例改正案を可決。

平成20年(2008)

1.30	1月臨時会	灯油高騰で福祉灯油あったか助成金を承認。除雪費などの補正予算案可決。
2.7~2.18	2月臨時会	産業支援センター精算の引責としての市長・石川副市長の給料削減案否決。
2.15~3.19	3月定例会	再提出された市長・副市長の給料削減案可決。市長辞職勧告決議案を否決。3つの特別委員会が調査結果の報告を行い、14カ月間の審査を終了する。
6.9~6.27	6月定例会	市庁舎建設問題等調査特別委員会設置。国保税率を統一する改正案を可決。6月14日の岩手・宮城内陸地震の被害復旧費9千万円の補正予算を可決。
9.8~9.29	9月定例会	議員定数調査検討特別委員会設置。会議規則を改正し議会活動範囲を拡大。
11.7~11.20	11月臨時会	世界同時不況。緊急雇用対策議案可決。本会議中継インターネット配信試行。
12.1~12.19	12月定例会	地域産業支援と雇用の維持確保を市当局に求める議会案を全会一致で決議。次回選挙より定数30名とする議員定数条例を制定。本会議中継配信開始。

平成21年(2009)

1.20	1月臨時会	第3次緊急雇用対策の補正予算案可決。3月末までに33人を横手市で雇用。
2.23~3.19	3月定例会	一般会計当初予算案は、森林組合への支援を一部凍結とする修正案を可決。
5.21	5月臨時会	長寿祝金を大幅に縮小・削減し、福祉政策の転換を図る条例改正案を否決。
6.8~6.26	6月定例会	緊急雇用対策等の補正予算案、特別職・議員・職員のボーナス削減案可決。
7.21~7.22	7月臨時会	市長・副市長の給与削減案否決。本会議の録画中継インターネット配信開始。
8.31~9.17	9月定例会	経済危機対策臨時交付金14億7千万円の事業案について、一部修正可決。
10.18	選挙投票日	市庁舎建設問題等調査特別委員長報告、庁舎建設の基金設立を当局に要請。
10.22	任期満了	前回の選挙から定数4名減となる定員30名の市議会議員選挙。即日開票。平成の合併後、初代となる横手市議会議員34名、4年間の任期を終える。



H17.11.14・初議会



H19.9.3・スギッチ議会



H20.6.14・山内中学校
地震で被害があった体育館



H21.9.17・採決のようす

一般質問項目

9月定例会では、7日と8日の2日にわたり、8名の議員が登壇して、市政を質しました。その、質問項目を紹介します。

※答弁内容は、市のホームページの録画中継でご覧になれます。

佐藤 誠洋 議員

1. 組織機構改革について、市長のビジョンを問う

- 本庁機能を集約した新庁舎を建設するのか、あるいは既存の建物に集約するのか。
- 本庁と地域局の集約方法・役割分担・職員配置はどうなるのか。
- 区長、地域自治区制が無くなった後の地域づくりはどのような形で担保されるのか。
- 2. 市の農業政策について
- 市長公約のマーケティング推進課の評価と、今後の方向は。
- 新規就農者対策について。

佐藤 徳雄 議員

1. 地域経済活性化対策について

- 失業率5%超え、求人倍率0.2%と非常にきびしい経済状況のあり、市行政主導の地域経済活性化対策の考えは。県施策の環日本海シーアンドレール構想に積極的に関わり、工業団地の有効利用、企業誘致、雇用の場の創出をはかるべきと思うが。

- 米以外の農作物で頑張っている農家、組織が依然として点状にしているだけで、横手市全体に面的に広がりをもせていない。所得向上に向けた施策を問う。
- 新政権誕生による農業政策の影響、対策は。
- 仮称・農林部を特化できないか。

- 2. 指名競争入札について
- 3. 地域自治の仕組みと組織機構改革について

播磨 博一 議員

- 1. 市長の農業観について
- 生産者が元気になる農業とは。
- 2. 若者の就労支援について（特に

新卒者の就職支援

- 現状をどう分析しているか。
- 事業所への働きかけなど、対応はどうしているか。
- 新卒者採用の向上のための、なお一層の支援策を求め。
- 3. 雄物川地域の保育所整備

立身 万千子 議員

- 1. 市政運営の総括と課題について
- 市長は、新市の市長選挙に際し、掲げたマニフェストについて、どのように総括をされたのか。
- ・5つの政策の柱の到達点と課題について。
- ・常勤特別職の報酬を10%削減する公約とは別に、自身の報酬を60%削減したが、

所信では総括が一切触れられていない。
市は、三つの宣言をした。持続的な宣言の具体策は。

高安 進一 議員

- 1. 高速通信体系が整備されたので、これを生かすためにも市役所各施設のICT化を更に進め、本庁・地域局の連携を合理化させ、行政システムの合理化、行財政改革の推進を図ることを提唱する。
- 2. 農業生産法人に対し、誘致企業並に固定資産税の減免を。
- 3. 青少年健全育成に市の「心」を入れてほしい。
- 4. 高齢者世帯の雪対策に、住民協力による有償ボランティアの「高齢者世帯雪対策応援隊」(仮称)を体制としてつくってほしい。

柿崎 実 議員

- 1. 五十嵐市政4年間の総括
- マニフェストの実行はどうか。
- 地域自治区設置の目的は果たされたか。
- 2. 地域自治の進展のために
- 地域局が自立して仕事が出来る仕組みと予算執行権の拡大。

○地域協議会から地域審議会へ。
○老朽化した庁舎の改築で地域センター機能を。

3. 分庁機構の早期見直しについて
○市長部局の本庁舎と周辺への集約。

○地域局の空きスペースは市民活動センターとして。

小笠原 恒男 議員

1. 地域づくりにおける商工会と行政の役割

○商工会の地域を支える中小企業に対する地域密着型経営支援サービスを強化するための巡回指導の徹底強化。

○地域資源活用や農商工連携等の新たな取り組みにより、疲弊した地域経済の立て直し。

2. 人材登用

○人材の適正配置について。

齋藤 光司 議員

1. 雇用について

○現在の雇用環境をどうみるか。

○十文字地区中核企業の雇用危機が予見されているが、見込みと市としての対応、対策を伺う。

○来春新卒者の雇用対応、対策は。

2. 新型インフルエンザへの対策

○足りないワクチンと、接種の優先順位をどうしていくのか。

○感染拡大時の治療体制は。

○発病時の学校、職場の対応策、マニュアルはできているのか。

○市民への予防指導、啓蒙策は。

3. 生涯学習センター費について

○枠配分方式による一律減額予算は、地域コミュニティを崩壊させないか。核となる公民館事業費激減をどう分析するか。

○地域コミュニティをどう考えるか。その強化の有効策は。

○施設管理費、修繕費の圧迫で、ソフト事業の相次ぐ廃止、削減。分離をすべきでないか。



議場での一般質問のようす

7月臨時会の概要

臨時会は、地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業の実施に係る補正予算案をはじめ、地域経済の活性化と雇用確保を目指す施策が審議の中心となりました。

開会日の21日は、専決処分の報告2件と議案11件が上程されました。

一般会計補正予算案は、15億円を超える予算規模と、事業が多岐にわたることから、翌日まで会期を延長して、審議を行なうこととなりました。

22日、当局から一般会計補正予算訂正の申し入れがあり、議会で了承しました。その後、一般会計予算特別委員会と各常任委員会の審議内容が報告されました。

採決では、一般会計補正予算案に、一般会計予算特別委員会から修正案が提出され、採決の結果、修正可決となりました。

また、その他の議案については、原案のとおり可決し、臨時会を閉会しました。

地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業の審査

大型の補正予算となった多数の事業内容の審査では、各々の事業を計画した根拠についての質疑が相次ぎました。当局からは、総合計画に基づくものやこれまでにも実施できなかった事業が主なものであるが、緊急な措置であったため、事業計画に精査の足りない部分があったことも否めないとの説明がありました。

補正予算案の一部を、当局は訂正、議会では修正

提案された事業のなかで、民間による放送局開局に向けたコミュニティFM支援事業と、観光や地域づくりを目的に道の駅さんないに民家2棟を移築するかやぶき屋根古民家活用事業については、目的や運営など事業内容について理解が得られませんでした。

このため、FM支援事業は当局で、古民家活用事業は議会で、今回は事業費を削除し、再度検討することとなりました。

議長報告 田中敏雄

京野代議士がご訪問

9月1日の懇談の中で、

◎ インフラ整備の格差を是正する公共事業の推進

◎ 地方に手厚い一括交付金

◎ 地方議員への国政報告以上の要望を注文申し上げます。

◆ マニフェストと呼ばれる政権公約が国政・地方を問わず登場する昨今、市議会は、4年間の検証と評価、そしてまちづくりの展望と、政策チェック能力が今問われています。

◆ 一区切りの議会が終わりました。市民みなさまのご協力に感謝申し上げます。



京野代議士と
(議長室にて)

行政視察の調査内容を報告

8月26日、佐藤功建設常任委員長は、雪となかよく暮らす条例に基づく市民委員会(宇佐美四十二委員長)のみなさんに、北海道の視察成果を報告しました。この市民委員会は、合併前に横手地域で創設され、現在は親雪・克雪をテーマに、全市に活動を展開している市民の会です。報告会では、はじめに、除雪・排雪に強いまちづくりに取り組んでいる岩見沢市の状況を佐藤委員長が説明しました。そ



活発な意見交換があった報告会

の後、雪と暮らすための横手市での課題について活発な意見交換が行われました。

厚生常任委員会管内視察



グループで救急救命を実習する委員

7月17日、委員8名は、横手市消防本部にて、普通救命講習を受講しました。

講習では、人工呼吸法や心臓マッサージ、AEDの操作方法

の実習を通じ、緊急時には救急車到着までの迅速な応急対応や周りの人とのチームワークが人命救助のカギとなることを実感しました。

その後、中央司令室や消防車両などを視察し、安全・安心なまちづくりに取り組む現場の状況を確認しました。

午後からは、県立衛生看護学院の学生と共に、認知症サポートー養成講座を受講し、高齢者への対応方法や、横手市での実態について学びました。

編集後記



立身委員・土田委員・菅原委員・阿部委員・佐藤委員
近江委員・柿崎副委員長・堀田委員長・高安委員

いつもご愛読くださりまして、ありがとうございます。／議会の報告は地味になりがちですが、議場から発する言葉は内容も濃く膨大であります。／編集委員会では、「市民に議会活動をわかりやすく伝える」ことを目標に頑張ってきました。／しかしながら、市民のみなさまには物足りなさやわかりづらさもあったことと思います。／これからも、市民に開かれた議会を目指し、広報活動を進めてまいりますので、ご指導ご支援をお願いします。／なお、今回の紙面は、改選直前ということで変則的な編集とさせていただきます。どうぞご理解を。(堀田記)